



なぜ新興国の経済成長率が高いのか？何が期待できるのか？

新興国は先進国に比べ相対的に経済成長率が高い傾向にあるのはなぜでしょうか。また高い経済成長を背景に何が期待できるのでしょうか。

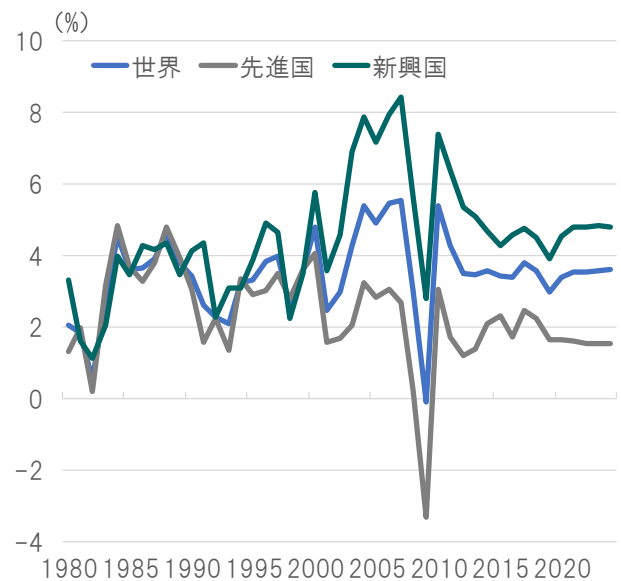
相対的に高い経済成長

まず先進国と新興国の経済成長率を比較すると、近年では新興国は先進国に比べ相対的に高い成長が続いています(図表1)。ただし、リーマンショック後の2009年の先進国のように、国の成長はマイナスの成長も起こり得ます。

またVol.3でご説明したように、「経済が成長する」ということはGDPが実質的に(インフレ率を差し引いて)増えることです。GDPは国内総生産のことで、1年間に国内で生み出された付加価値額の合計です。付加価値というのは平たく言えば利益のことです。

つまり、GDPは1年間に国内で生み出された利益の合計額のことであり、このGDPが増えるということは、利益を生み出す主体である企業の生み出す付加価値が増えることに他なりません。

図表1:実質経済成長率の推移
(年次、期間:1980年~2024年)



※2018年以降はIMFによる予測値

出所:IMF World Economic Outlook Database, October 2019
のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

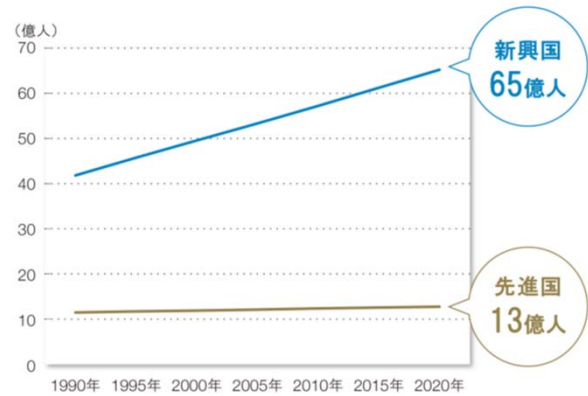
高成長の背景

GDPは【1人当りGDP×人口】と表すことができます。新興国の経済成長率が高いのは、人口が増え続けていることに加え、1人当りGDPが低いためにインフラ投資などによる経済効率向上効果が非常に高く、さらに人口増加が経済効率向上にもプラス効果をもたらすことが理由として考えられます。

世界の人口は増加を続けていますが、その大部分を新興国が牽引しています(図表2)。新興国の豊富な労働人口は、付加価値を生み出す労働力としてだけでなく、消費の担い手としても経済成長の原動力になると考えられます(図表3)。

図表2:新興国と先進国の人口推移

(年次、期間:1990年~2020年、2020年は予想)



図表3:新興国と先進国の労働人口(15歳~64歳)の比較
(2020年予想)



※新興国・先進国の分類および予想は国連による。
出所:国連 World Population Prospects 2019のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

高成長から期待できること

新興国の経済成長の軌跡を振り返ると、新興国の大きな経済成長は短期的に達成されたものではなく、10年単位の時間をかけて達成されたものであることも確認できます(図表4)。国の大きな成長や発展は数ヶ月や数年で達成されるものではありません。

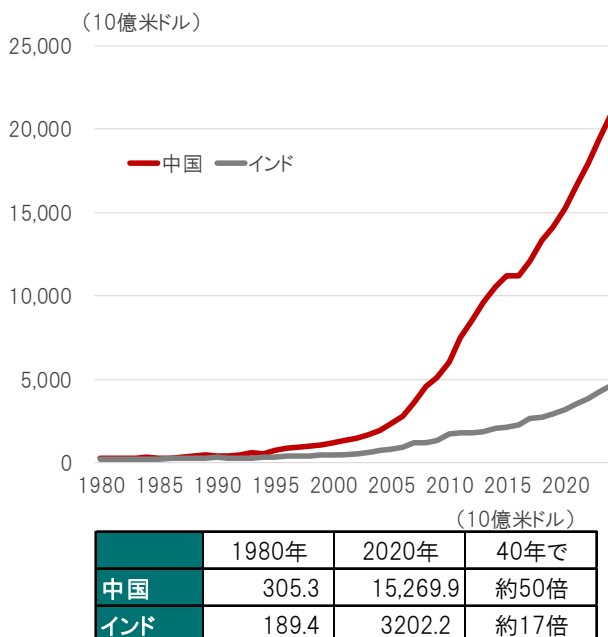
企業は毎年企業努力を重ね、利益を伸ばしていこうとします。たとえば毎年前年比で5%ずつ利益が伸びていく場合、数ヶ月の間にはほとんど利益は伸びず、1年経過してもわずか5%の伸びですが、40年では7倍となります。

中長期に株式投資を行った場合、こうした利益成長が大きく積み上がっていくことが期待できます。また、利益の一部が還元される毎年の配当金が積み上がってだけでなく、利益の伸びによって配当金額も伸びていくことが期待できます。

実際に新興国株式のリターンの推移を見ると、途中、97年のアジア通貨危機や00年のITバブル崩壊、08年のリーマンショックなど様々な金融危機を経験しながらも、長期では大きく上昇しています。また、価格指数(赤線)と配当込み指数(青線)の差を見ていただくと、インカムゲインの寄与が非常に大きいことが分かります(図表5)。

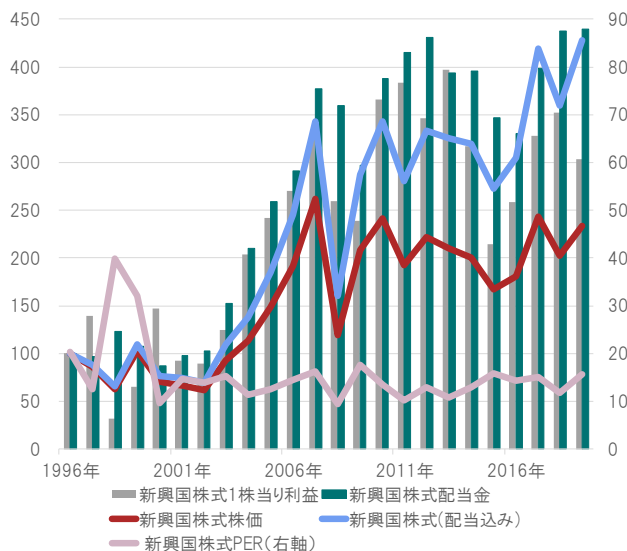
経済や金融市場のみならず、政治や社会体制が不安定な国も多く、先進国と比べて大きなカントリーリスクや流動性リスクなどが伴います。また、価格変動リスクも先進国投資と比べて大きくなります。一方で、リスクと引き換えに、先進国では期待できないような大きなリターンが期待できるというのが新興国投資の魅力の1つと言えるのではないのでしょうか。

図表4: 中国・インドの名目GDP推移
(期間: 1980年~2024年)



※2018年以降はIMFによる予測値
出所: IMF World Economic Outlook Database, October 2019
のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表5: 新興国株式のリターンの推移
(年次、期間: 1996年末~2019年末)



※1996年12月末を100として指数化。米ドルベース。新興国株式: MSCIエマージング・マーケット指数。出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

データは過去の実績であり、**将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。**